

# 南海トラフ巨大地震の被害想定(死者数:最大ケース)

(1) 東海地方が大きく被災するケース

死者数(地震動:陸側ケース、津波ケース①、冬深夜、風速 8m/s、早期避難率低)

	建物倒壊		津波	急傾斜地崩壊	火災	ブロック塀・自動販売機の転倒、屋外落下物	合計
	(うち屋内収容物移動・転倒、屋内落下物)						
茨城県	-	-	約 10	-	-	-	約 10
栃木県	-	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-
千葉県	-	-	約 1,600	-	-	-	約 1,600
東京都	-	-	約 1,500	-	-	-	約 1,500
神奈川県	-	-	約 2,900	-	-	-	約 2,900
新潟県	-	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	約 400	約 30	-	約 10	-	-	約 400
長野県	約 50	約 10	-	約 10	-	-	約 50
岐阜県	約 200	約 30	-	約 20	-	-	約 200
静岡県	約 13,000	約 1,200	約 95,000	約 40	約 1,600	-	約 109,000
愛知県	約 15,000	約 1,300	約 6,400	約 50	約 1,800	-	約 23,000
三重県	約 9,800	約 600	約 32,000	約 60	約 900	-	約 43,000
滋賀県	約 500	約 50	-	-	-	-	約 500
京都府	約 800	約 70	-	-	約 10	-	約 800
大阪府	約 3,800	約 300	約 200	約 10	約 500	約 10	約 4,500
兵庫県	約 1,700	約 100	約 1,100	約 10	約 50	-	約 2,800
奈良県	約 1,600	約 100	-	約 30	約 50	-	約 1,700
和歌山県	約 6,000	約 400	約 28,000	約 40	約 1,500	-	約 35,000
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	約 1,100	約 80	約 20	約 10	約 10	-	約 1,200
広島県	約 700	約 50	約 60	約 20	-	-	約 800
山口県	約 80	約 10	約 50	約 10	-	-	約 100
徳島県	約 5,200	約 400	約 6,300	約 40	約 700	-	約 12,000
香川県	約 2,300	約 100	約 200	約 20	約 80	-	約 2,600
愛媛県	約 7,400	約 400	約 2,800	約 50	約 700	-	約 11,000
高知県	約 10,000	約 600	約 12,000	約 80	約 2,100	-	約 25,000
福岡県	-	-	約 10	-	-	-	約 10
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	約 10	-	-	-	約 10
熊本県	-	-	-	約 10	-	-	約 10
大分県	約 200	約 20	約 9,000	約 40	-	-	約 9,300
宮崎県	約 2,400	約 200	約 31,000	約 20	約 100	-	約 34,000
鹿児島県	約 10	-	約 300	-	-	-	約 300
沖縄県	-	-	約 10	-	-	-	約 10
合計	約 82,000	約 6,200	約 230,000	約 600	約 10,000	約 30	約 323,000

-: わずか  
(注) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、都府県別の数値はある程度幅をもって見る必要がある。また、四捨五入の関係で合計が合わない場合がある。

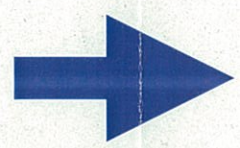
死者数(地震動:陸側ケース、津波ケース①、冬深夜、風速 8m/s、各種防災対策の徹底)

(人)

	建物倒壊		津波	急傾斜地崩壊	火災	ブロック塀・自動販売機の転倒、屋外落下物	合計
	(うち屋内収容物移動・転倒、屋内落下物)						
茨城県	-	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-	-
東京都	-	-	約 400	-	-	-	約 400
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	約 30	約 10	-	-	-	-	約 30
長野県	-	-	-	-	-	-	-
岐阜県	約 10	約 10	-	-	-	-	約 10
静岡県	約 4,900	約 200	約 24,000	-	約 100	-	約 29,000
愛知県	約 2,500	約 200	約 600	-	約 20	-	約 3,200
三重県	約 1,500	約 60	約 3,100	-	約 10	-	約 4,600
滋賀県	約 40	約 10	-	-	-	-	約 40
京都府	約 60	約 20	-	-	-	-	約 60
大阪府	約 300	約 70	約 10	-	-	-	約 300
兵庫県	約 100	約 30	約 10	-	-	-	約 100
奈良県	約 100	約 20	-	-	-	-	約 100
和歌山県	約 700	約 30	約 13,000	-	-	-	約 14,000
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	約 70	約 20	-	-	-	-	約 70
広島県	約 40	約 10	-	-	-	-	約 40
山口県	-	-	-	-	-	-	-
徳島県	約 1,100	約 40	約 500	-	約 20	-	約 1,600
香川県	約 200	約 20	約 20	-	-	-	約 200
愛媛県	約 700	約 30	約 80	-	-	-	約 800
高知県	約 2,300	約 70	約 900	-	約 100	-	約 3,300
福岡県	-	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-
大分県	約 10	約 10	約 10	-	-	-	約 20
宮崎県	約 300	約 20	約 3,100	-	-	-	約 3,400
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-
合計	約 15,000	約 800	約 46,000	-	約 300	-	約 61,000

-: わずか  
(注) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、都府県別の数値はある程度幅をもって見る必要がある。また、四捨五入の関係で合計が合わない場合がある。

減災対策の徹底



建物の耐震化  
家具転倒防止  
地震直後の津波避難  
津波避難ビルの有効活用  
等の徹底

・各種防災対策の徹底により、人的被害を1/5まで低減できる。  
(さらなる耐震性強化、避難施設整備、土地利用見直し等の中長期的対策は見込んでいない)

## 滋賀県域における被害想定概要

- ・ 県域で津波による直接被害想定は無し
- ・ 地震動・液状化等による被害想定は以下のとおり(概数)。

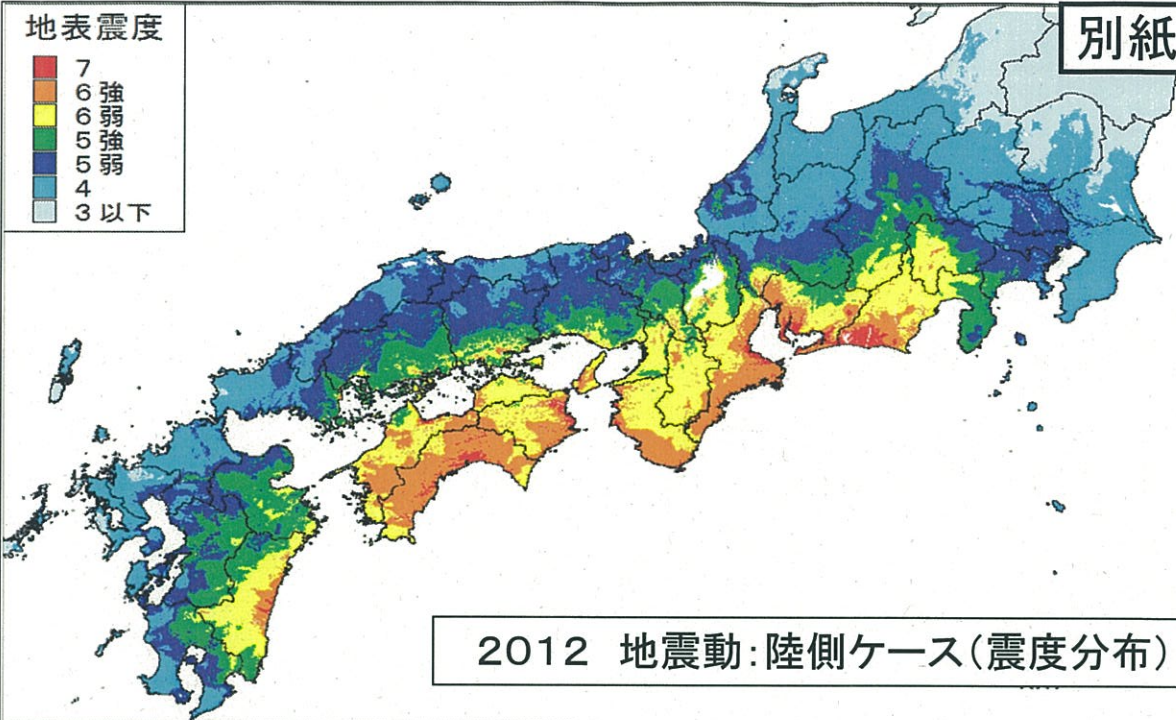
項目・条件	地震動：陸側ケース					合計
	揺れ	液状化	急傾斜	火災		
建物全壊・全焼(棟)						
冬深夜 平均風速	7,800	2,600	80	50		10,000
冬深夜 風速8m/s	7,800	2,600	80	50		10,000
夏12時 平均風速	7,800	2,600	80	50		10,000
夏12時 風速8m/s	7,800	2,600	80	50		10,000
冬18時 平均風速	7,800	2,600	80	1,100		12,000
冬18時 風速8m/s	7,800	2,600	80	2,700		13,000
死者数(人)	建物家具倒壊 (内家具倒壊等)		急傾斜	火災	その他	合計
冬深夜 平均風速	500	(50)	—	—	—	500
冬深夜 風速8m/s	500	(50)	—	—	—	500
夏12時 平均風速	300	(30)	—	—	10	300
夏12時 風速8m/s	300	(30)	—	—	10	300
冬18時 平均風速	400	(30)	—	—	10	400
冬18時 風速8m/s	400	(30)	—	10	10	400
負傷者数(人)	建物家具倒壊 (内家具倒壊等)		急傾斜	火災	その他	合計
冬深夜 平均風速	9,700	(1,400)	10	—	20	9,800
冬深夜 風速8m/s	9,700	(1,400)	10	—	20	9,800
夏12時 平均風速	6,300	(1,100)	—	—	200	6,600
夏12時 風速8m/s	6,300	(1,100)	—	—	200	6,600
冬18時 平均風速	7,400	(1,100)	—	50	400	7,900
冬18時 風速8m/s	7,400	(1,100)	—	100	400	8,000
要救助者数(人)	揺れによる建物被害に伴う要救助者数(自力脱出困難者数)					
冬・深夜						1,800
夏・昼						1,300
冬・夕						1,500

注1)各欄数値は概数。 —表示は被害がわずかであることを表す。

被害は、液状化→揺れ→津波→急傾斜地崩壊等→火災の順に重複分を差引いて算定。

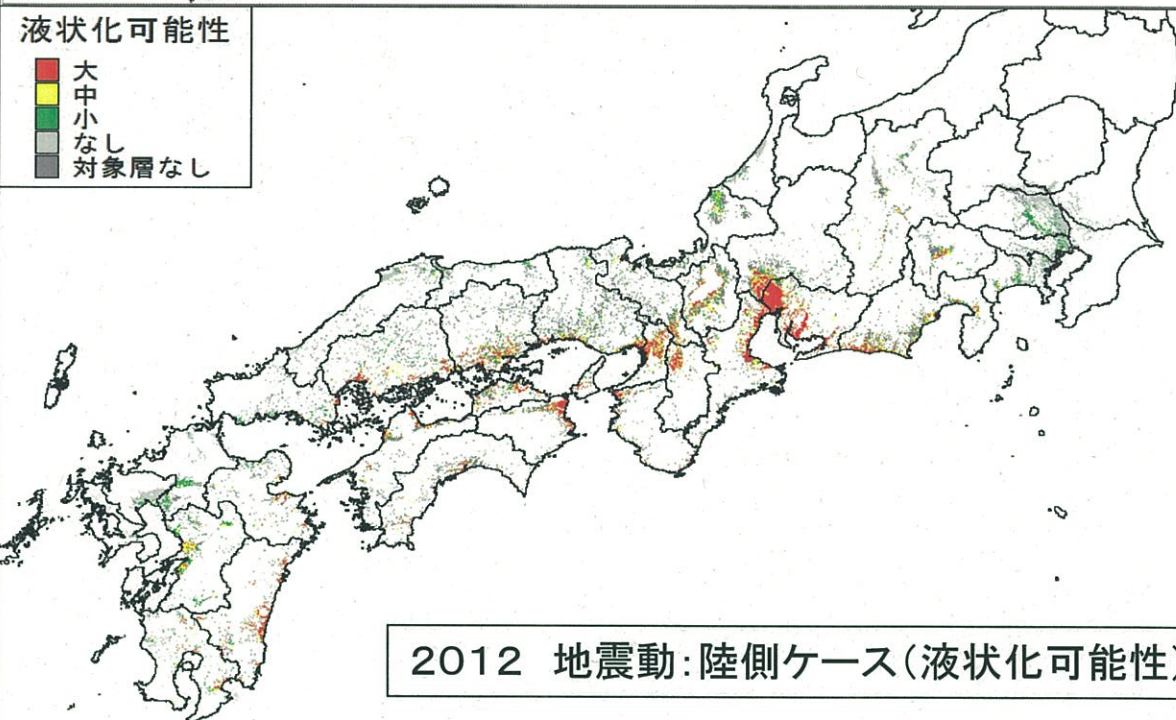
注2)上記により、合計欄の数値は各欄の数値の和と合致しないことがある。

地表震度

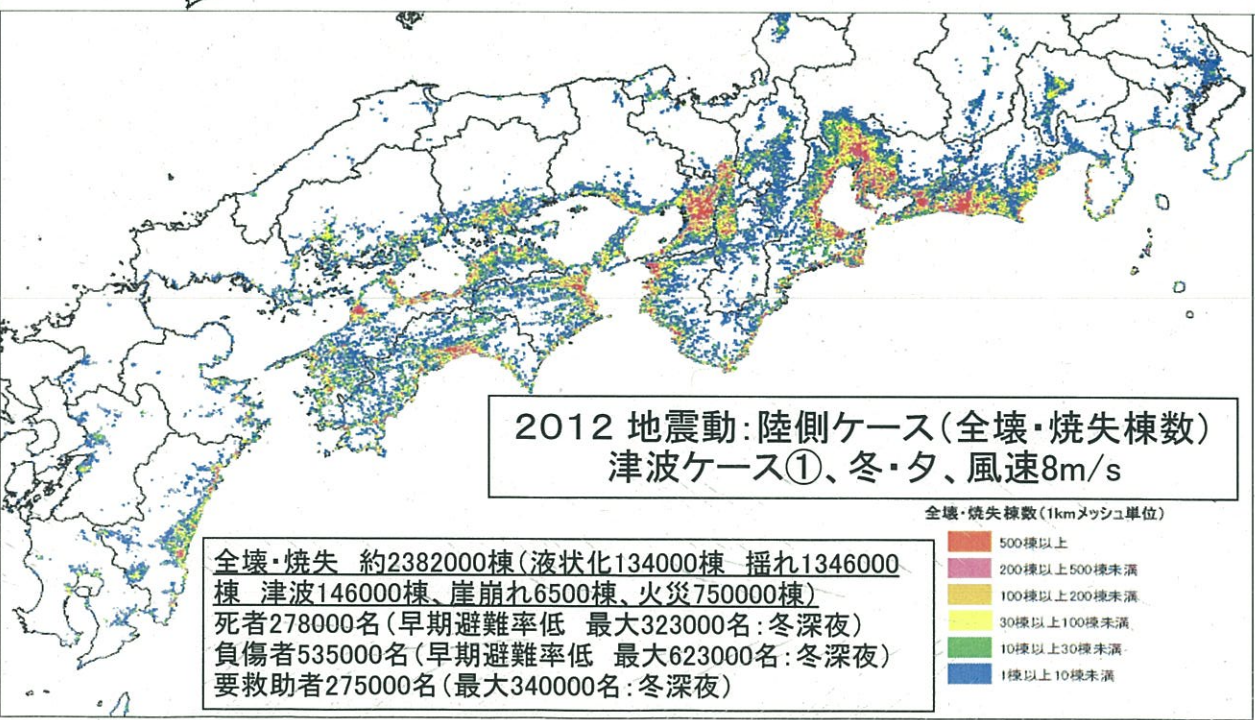


2012 地震動:陸側ケース(震度分布)

液状化可能性

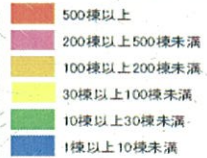


2012 地震動:陸側ケース(液状化可能性)



2012 地震動:陸側ケース(全壊・焼失棟数)  
津波ケース①、冬・夕、風速8m/s

全壊・焼失棟数(1kmメッシュ単位)



全壊・焼失 約2382000棟(液状化134000棟 揺れ1346000棟)  
 津波146000棟、崖崩れ6500棟、火災750000棟  
 死者278000名(早期避難率低 最大323000名:冬深夜)  
 負傷者535000名(早期避難率低 最大623000名:冬深夜)  
 要救助者275000名(最大340000名:冬深夜)